



平成21年4月17日

各位

会社名 株式会社 葵プロモーション
代表者 代表取締役社長 高瀬 哲
(コード番号9607 東証第一部)
問合せ先 専務取締役 八重樫 悟
TEL03(3779)8000

中期経営計画策定のお知らせ

当社は、2013年10月の創立50周年に向けて、中期経営計画を再構築し「Shape Up Plan」として策定しましたのでお知らせいたします。

記

1. 策定の背景と目的

当社を取り巻く経営環境は、極めて厳しい状況にあります。米国金融危機に端を発した世界経済の混乱によりわが国経済は大きな影響を受け、企業業績・個人消費ともに低調なものとなりました。広告需要もその埒外にはなく、バブル崩壊時以上の落ち込みを示しております。

来るべき創立50周年に向けて、業績の早期回復を図るための諸施策を実施し、いかなる経営環境の下でも安定した収益を確保できる強固な経営体質を築こうとするものです。

2. 企業理念（平成20年12月3日公表時と変わりありません）

「Dream & Happiness」

私たちは映像制作を通じ、すべての人々と喜びを分かち合い、ひろく経済、情報、文化に貢献する企業をめざします。

3. 経営方針（平成20年12月3日公表時と変わりありません）

(1) 中期経営方針

- ① グループのシナジー効果によるワンストップサービス機能の強化
- ② 高度なクリエイティビティを活かした映像コンテンツの制作
- ③ 海外の友好プロダクションとの連携によるグローバルな制作体制の積極活用
- ④ クロスメディアに対応できる営業力・企画力の強化と人材の育成

(2) 経営目標

- | | |
|----------------------------------|---------|
| ① グループ総売上 | 190億円以上 |
| ② Webコンテンツ、映画などTVCM以外の映像コンテンツの売上 | 40億円以上 |
| ③ 1株当たり当期純利益 | 50円以上 |
| ④ 株主資本当期純利益率（ROE） | 7%以上 |

4. 当面の施策

(1) 営業体制の強化

① ワンストップサービスの更なる強化

～制作系のグループ子会社の銀座トミタビル集結～

- a. (株)ワサビ (旧株)メイアンスパイク) = テレビCMの企画・制作
- b. (株)葵デジタルクリエーション= デジタルコンテンツ及びWebサイト等の企画・制作
- c. (株)エムズプランニング= イベント及び展示会の企画・運営
- d. (株)スクラッチ= 広告全般の戦略・企画・制作
- e. 協力会社: (株)ティ・ケー・オー= グラフィック広告・Web広告の企画・制作

② グループ内人材適正配置による営業力の強化

～(株)葵プロモーションのプロデューサー・ディレクターの注入等による子会社のテコ入れ～
(株)ワサビ・(株)葵デジタルクリエーション・(株)シースリーフィルム等との人材交流

(2) 収益力の強化

① 制作原価率の抑制 <約100百万円>

- a. 制作方法の工夫、無駄の見直し、制作協力会社の見直し等の徹底
- b. グループ内内製化の推進

② 人件費の抑制 <約240百万円>

- a. 役員報酬の10%カット (前期年収比)
- b. 管理職 (年俸制) の5%相当カット (年俸査定厳格による)
- c. 役員退職慰労金制度の廃止
- d. 企業年金 (適格退職年金→確定給付企業年金) 移行による退職給付費用の平準化

③ 物件費の抑制 <約100百万円>

- a. オフィス移転・集約化による賃借料の軽減
- b. 有効使用の徹底による接待交際費・会議費の節減
- c. 使用ルールの厳格化による事務用品費等の節減

④ 不採算部門の見直し <約60百万円>

- a. エンタテインメントコンテンツディビジョンの縮小
- b. クリエイティブディビジョンのグループ内再配置及び縮小

⑤ その他 <約460百万円>

第46期計上の「映画制作に係る貸倒引当金」「投資有価証券評価損・売却損」「役員退職慰労金」「事務所移転損失引当金」等々がなくなること。

5. 数値目標

足下の景気後退による広告需要の大幅な減少 (特に当社が主力としてきた「自動車」「電気機器」の減少) や民放連研究所等の需要予測を基に、上記の収益力強化策を織り込んで、平成20年12月

3日公表の「中期経営計画」の数値目標を見直しました。

前回公表の数値目標に比較して、売上高は経済情勢を反映し後退しておりますが、筋肉質の経営体制を構築することにより各利益は相応な水準を確保できる見込みです。

(1) 連結

(単位：百万円、%)

	46期(2009/3期)		47期(2010/3期)		48期(2011/3期)	
	金額	前期比	金額	前期比	金額	前期比
売上高	16,780	97.3	16,950	101.0	17,550	103.5
営業利益	290	34.6	880	303.4	1,150	130.7
経常利益	285	36.5	810	284.2	1,070	132.1
当期純利益	△430	-	410	-	550	134.1

	49期(2012/3期)		50期(2013/3期)		51期(2014/3期)	
	金額	前期比	金額	前期比	金額	前期比
売上高	18,400	104.8	19,500	106.0	20,750	106.4
営業利益	1,340	116.5	1,640	122.4	1,920	117.1
経常利益	1,240	115.9	1,530	123.4	1,800	117.6
当期純利益	660	120.0	810	122.7	930	114.8

(2) 個別

(単位：百万円、%)

	46期(2009/3期)		47期(2010/3期)		48期(2011/3期)	
	金額	前期比	金額	前期比	金額	前期比
売上高	13,018	89.2	12,500	96.0	13,000	104.0
営業利益	270	47.6	460	170.4	630	137.0
経常利益	395	64.3	520	131.7	680	130.8
当期純利益	△285	-	230	-	315	137.0

	49期(2012/3期)		50期(2013/3期)		51期(2014/3期)	
	金額	前期比	金額	前期比	金額	前期比
売上高	13,650	105.0	14,500	106.2	15,500	106.9
営業利益	780	123.8	980	125.6	1,170	119.4
経常利益	820	120.6	1,010	123.2	1,190	117.8
当期純利益	385	122.2	480	124.7	570	118.8

(注) 上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上